

美空 ~MISORA~

第205号

発行日:2026年9月30日

発行者:NPO 法人 電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

目次 INDEX

- ・活動報告
東京理事会・合同理事会 …… 1
- ・インターン生が村山支部長(北海道支部)にインタビュー …… 3
- ・ぼうさいこくたい2026 in 鳥取のご案内 …… 8
- ・無電柱化学生意識調査の結果報告 …… 9
- ・インターンを終えての振り返り …… 14

特定非営利活動法人

電線のない街づくり支援ネットワーク

THE NETWORK FOR NON POLE COMMUNITY

【活動報告】

9/16(水)17:00~17:30

東京理事会



WEB: Cisco Webex (WEB のみで開催)

参加者: 7名

※今回、前川理事よりご提供いただいた生成 AI で報告

本会議には北村良氏、NPO 無電柱ネット塚田氏、Mitsuru Maekawa 氏、佐伯康二氏が参加し、無電柱化推進に関する複数の重要議題を議論した。

北村氏が無電柱街並み見学会の詳細な日程、参加者状況、現地視察内容を説明し、塚田氏が参加者募集のリマインドを担当することを確認した。

レンタカーの手配は全員乗り合わせで統一することが決まり、佐伯氏の質問により明確化された。10月25日の有明エリアでの無電柱化イベントは資料不具合により口頭説明となり、防災をテーマにしたパネル展示やミニセミナーの企画が進行中である。

11月13日の市区町村長の会勉強会と12月3日の東京活動委員会の予定も共有され、後者は内容未定のため参加者からの提案を募っている。

次回理事会は10月7日にウェブ開催される予定である。

全体として、無電柱化推進の現場視察や情報発信、関係者連携の強化に向けた具体的な準備が進められている。

詳細な要約

無電柱街並み見学会計画

北村良氏が無電柱街並み見学会の予定と参加者状況を報告した。参加者は理事、関係者、外部含め12名のリアル参加が確定しており、東京都・国交省都市局からの参加者はまだいない。参加募集は20名を目標にしており、申し込み締め切りは9/25(金)と設定されている。

見学会日程と内容詳細

見学会は10/20(火)~21(水)の1泊2日で開催され、参加者は各自交通費・宿泊費・懇親会費を負担する。

20日は佐久平駅集合後、事業者説明や現地見学、交流会を行い、21日は町長との意見交換会を予定している。現地の住宅開発は無電柱化を活用したまちづくりの好事例であり、参加者は現地の状況を直接視察し、意見交換

を行う。

現地の住宅開発は無電柱化を活用したまちづくりの成功事例であると強調された。

現地施設と会議室調整

見学会の説明会は(株)大建さまの会議室を借りる予定だが手狭なため、参加人数増加に備え近隣の町の会議室や浅間縄文ミュージアムの会議室を借りる検討を進めている。参加者数の確定後に最終調整を行う方針である。

レンタカー利用と移動手配

佐伯康二氏がレンタカーの割り振りについて質問し、北村良氏が参加者全員で乗り合わせる形でレンタカーを手配する予定と回答した。個別にレンタカーを借りる必要はなく、全体で統一して手配することが決まった。

塚田氏が手配の統一を確認し了承した。→事前予約は不要との対応をする。

有明エリア無電柱化イベント準備

10/25(日)に有明エリアで開催予定の無電柱化関連イベントについて、国交省や関連団体が協力し、防災や安全な通行をテーマにしたパネル展示やミニセミナーを企画している。出演者の調整も進行中で、詳細は今後決定される。

塚田氏が国交省や関連団体の協力体制を説明。

出演者の調整が続いており、詳細は未確定とされた。

今後の勉強会と活動委員会予定

11/13(金)に無電柱化を推進する市区町村長の会の勉強会が佐久平交流センターで開催され、配信協力を行う予定。

12/3(木)の東京活動委員会の内容は未定であり、参加者からのアイデア募集が呼びかけられた。



東京理事会の様子（モニターから）

次回理事会は 10/7(水)に WEB のみで開催される。
※それまでに、12/3(木)のテーマをどうするか理事の皆さんからメールなどで意見を募る。

【活動報告】

9/16(水)17:30~18:00

合同理事会



WEB: Cisco Webex (WEB のみで開催)

参加者: 8名

1. 事務局報告

9/14(月) 北海道活動委員会(WEB)

9/16(水) 東京理事会・合同理事会(WEB)

9/28(月) 沖縄活動委員会(会場・WEB)

10/7(水) 東京理事会・合同理事会(WEB)

10/15(木) 寒地土木研と土木学会論文作成に伴う意見聴取を NPO 事務局(大阪)で実施

※寒地土木研さんが土木学会で当 NPO の活動内容とその歴史を論文にまとめて 12 月に発表予定

10/17(土)~10/18(日) ぼうさいこくたい 2026 鳥取
(鳥取県倉吉市)

※ NPO 事務局と北海道支部が共同でブース出展。

※16 日(金)に展示準備。鳥取県立美術館1階県民ギャラリーで展示 B-130

10/20(火)~10/21(水) 無電柱化街並み見学会
(御代田町)

※ガーデンシティ MIYOTA 軽井沢を見学。

21 日は御代田町長と意見交換会を予定

10/21(水) 国交省主催、無電柱化推進 WG

10/25(日) 無電柱化の日イベント 豊洲そなエリア

11/4(水) 東京理事会・合同理事会(WEB)

11/4(水)~10(火) 北海道、全道一斉パネル展、札幌チ・カ・ホイベント

11/7(土) 大阪国道事務所主催、無電柱化の日イベント

※1. 開催日時 令和 8 年 11 月 7 日(土) ①13:15~13:45、②15:00~15:30

※2. 開催場所「曽根崎地下歩道内 みちまちスクエアきた」(大阪府大阪市北区梅田1丁目)

11/8(日) 近代設計東北支社の無電柱化の日イベント

※NPO 本部が名義貸し。AER アトリウム内(宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1)

11/10(火) 東京都、東京都庁で無電柱化の日イベント

※井上事務局長が登壇予定

11/13(金) 無電柱化を推進する市区町村長の会 令和 8 年度第 3 回勉強会

※佐久市、佐久平交流センター第 5 会議室 ハイブリッドの予定

12/3(木) 東京理事会・合同理事会・東京活動委員会
住友林業会議室 M-6

12/5(土)~7(月) 第 74 回土木計画学研究発表会・
秋大会(企画提案型)

※寒地土木研さまの論文発表ほか 島根大学

2. ぼうさいこくたいの進捗報告

パネル作成 (サイズ:A0×2 枚、A1×3 枚)

ポスター印刷手配一式

運送費用

のぼり(事務局で手配) 2本

テーブルクロス(事務局で手配)

3. 無電柱化の日イベントについて

11 月 11 日することを検討していたが、井上事務局長が 11 月 10 日に東京都のイベントに参加するので東京都のイベントに NPO が協力という立場でできないか調整中。宙に浮いている 11 月 11 日(水)を無電柱化の日の特別なイベント(少し思考してもよいが)とせず、第 16 回全国技術委員会 OSAKA を開催するのはどうでしょうか。

※会場予定の大阪市立総合生涯学習センターは、当日は第4研修室(36 名)のみ空いています。

4. その他、引き継ぎの件など、来年に向けた展望

5. 理事報告ほか

・日本共同溝協会中国支部が国交省の藤井課長補佐との意見照会をする予定(佐伯理事)

6. 次回理事会の予定

10/7(水) 17:00~17:30 は東京理事会、17:30~18:00

は合同理事会 (WEB のみ)

NPO 法人電線のない街づくり 支援ネットワークの会員募集



私たちはこの NPO の活動を通して、日本の街に美しい空を取り戻したい、災害に強く、安全安心で住み良い街にしたい。そして“美しい国”を子ども達に残したい。このような想いのもと、当 NPO の活動に共に参加し、年会費を通じて支援して下さる、個人・企業様を募集しています。ご推薦も是非お願い致します!

会員募集のご案内

「インターン生 活動結果報告」 part1



イラストはイメージです。

【インタビューの動機・目的】

私は、この電線のない街づくり支援ネットワークのインターンシップに参加し、無電柱化は景観の保持・改善や安全な通行につながるだけでなく、防災面にもさまざまなメリットをもたらすことを学びました。

今年の日本は特に、地震、台風、集中豪雨など、災害や異常気象の影響を大きく受けていると思います。そこで、無電柱化と防災面での効果について、さらに理解を深めたいと思い、幅広い知識と経験をお持ちである NPO 北海道支部の村山支部長へインタビューを依頼しました。

【村山支部長への 13 個の質問】

取材にのぞむ前に色々検討し、13 個の質問を用意いたしました。

無電柱化への関わり・目的について

- ① 村山支部長が無電柱化に取り組まれたきっかけは何ですか？
- ② 現在、無電柱化についてどのような取り組みをされていますか？
- ③ 無電柱化には、どのようなメリットや目的があると考えていますか？

防災との関わりについて

- ④ 防災の観点から、無電柱化を優先して進めるべき場所にはどのような特徴がありますか？
- ⑤ これまでに起きた災害の中で、無電柱化の重要性が改めて感じられた事例はありますか？
- ⑥ その他、無電柱化と防災に関して、村山支部長のご意見をお聞かせいただけますか？

実際の取り組み・現場について

- ⑦ これまで無電柱化に関わる中で、印象に残っている取り組みはありますか？
- ⑧ 資料だけでは分かりにくい、現場ならではの苦労はありますか？

一般の人々の認識・情報発信について

- ⑨ 一般の人にはあまり知られていない、または誤解されやすいと感じることはありますか？
- ⑩ 一般の人々に、無電柱化について知ってほしいことはありますか？

⑪ またそれをどのようにして伝えれば良いのでしょうか？

今後の無電柱化について

⑫ 無電柱化をさらに進めていくためには、どのようなことが必要でしょうか？

⑬ これからの無電柱化について、どのようになっていくと良いと考えていますか？

これらの質問に対して、村山支部長が資料を用いて、一つひとつ丁寧に回答をしていただきました。

取材は1時間15分に及びました。

村山支部長および関係者の皆様に感謝申し上げます。

ご回答の中で、特に重要、印象に残ったものを紹介させていただきます。

【無電柱化への関わり・目的について】

現在、村山支部長は、

- ・北海道開発局が発注する国直轄の電線共同溝工事の施工
- ・地中探査、試掘、現地の地盤や道路条件の確認といった調査
- ・トレンチャーを活用した単独地中化、共同施工
- ・北海道支部主催で、無電柱化北海道フォーラム 2026(2026.5.14)を開催し、行政・市民との対話を通じた情報を発信などに取り組まれています。

通信土木の仕事がその原点となっており、通信ケーブルを収容する地下管路やマンホールの施工、高度成長期の東京での山手線沿線の道路・商店街などの電線類地中化工事、北海道の電線共同溝工事の施工などに携わってきました。

また、国は、無電柱化をする目的を、①防災・②安全な通行・③景観の向上・観光の振興としているが、その中でも、「命を守ること」を重視されています。

またお話を伺うなかで、無電柱化は、単に地中化するだけではなく、地上機器を含めた道路の維持管理も必要だということが分かりました。

【防災との関わりについて】

QUESTION 05

阪神・淡路大震災が、防災への考え方を変えました

6,434人 震災による死者数

約73% 死因判明5,483人のうち
窒息・圧死3,979人

39人+5人 神戸大学生と
旧神戸商船大学生の犠牲



住宅・建築物の耐震化が防災の大前提です。

そのうえで、倒れた電柱や電線による道路閉塞を減らし、避難・救助・消火・物資輸送ができる道を確認します。
神戸大学では現在も毎年、六甲台・深江の両キャンパスで慰霊献花式が続いています。

今の御社の防災を考える上でのきっかけになった出来事は、やはり、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災です。

これをきっかけに、道路閉鎖を防ぐ無電柱化の防災上の重要性を認識され、現場の技術と課題を社会へ伝えることも役割だとお考えになっています。

防災には、耐震化や避難計画、消防・救急・インフラの整備など、さまざまな備えが必要である一方、道路が通れなくなる要因には、建物・構造物の損壊、自然災害による被害などを指摘されていました。

資料であげて下さった神戸大学・旧神戸商船大学の学生の悲劇は、古い家屋での倒壊が招いた面があり、この災害をきっかけに全国で建物の耐震化が見直されました。

無電柱化は、防災の手段の一つであり、電柱倒壊や電線の断線による垂れ下がりによる道路閉鎖を減らすことができます。地域の危険性や緊急性を考慮して、最適な対策を選び、関係者が連携して取り組むことが重要であると考えているとのことでした。

QUESTION 06

防災型無電柱化は、電柱をなくすだけではありません

避難施設を造るだけでなく、そこへつながる「命の道」が災害後も通れるかを考えます。

耐震化

住宅・建築物の倒壊を防ぐ

避難路

避難所や高台までの道を守る

救助活動

消防・救急・道路啓開を支える

電力・通信

途絶を減らし復旧を支える

災害が起きる前に、助けられる命を少しでも増やしておく

無電柱化を優先すべき場所としては、緊急輸送道路と避難所までの地域道路の両方を挙げられていました。防災上重要な道路だけでなく、避難経路となる生活道路も含め、地域の状況に応じて無電柱化の優先順位を決めていく必要があることを知りました。

【実際の取り組み・私たちの認識について】

無電柱化は、「景観のためだけに行われる」「電柱・電線を埋めるだけ」「災害に絶対強い」といったような単純な事業ではないといえます。無電柱化は、景観以外にも、防災や安全な通行等にも関係します。また、ただ地下に埋設するだけでなく、インフラの調整も必要であり、地中設備も自然災害の被害を受けることがあるため、費用だけでなく、非常時の社会的損失も考慮しなければならないと述べられていました。

また、夜間・冬季施工、地下埋設物の確認、住民・関係者との調整など、実際の工事には現場ならではの苦労や努力があることが分かりました。

優先すべきは「動脈」と「毛細血管」の両方です

動脈 | 緊急輸送道路

高速道路・高規格道路のICから
行政、病院、消防、警察、自衛隊へ

災害後の輸送と道路啓開を支える

毛細血管 | 地域の避難路

自宅から避難所、高台、津波避難タワーへ
狭く代替路がない道

高齢者や子どもの避難に時間がかかる地域



道路啓開（どうろけいかい） 倒壊物や放置車両などを取り除き、救助・消防・緊急車両が通れる道を確認すること

06

例えば、夜間に工事を行うためには、騒音、振動、交通規制、店舗への出入りへの配慮など、地域の住民や関係者に説明し、理解を得る必要があります。住民からは工事に対する苦情もあったそうです。

また、地下の設備は、図面だけでは分からないこともあり、地中探査と試掘で確認をします。

さらに、北海道では、冬に工事を行う場合、除雪、凍結地盤、低温下での作業環境も考慮して安全と品質を確保しなければなりません。

また、工事が完了したとき、いままでの努力の上で完成したすばらしい設備は、消え去った電柱とともに見えなくなってしまうことが多く残念だとのことでした。

私はこの点が特に印象に残りました。

普段は完成した状態しか見ることがないため、その裏側にある多くの人の仕事や努力について考えるきっかけになりました。

【一般の人々の認識・情報発信について】

では、防災や無電柱化を自分事として考えるためにはどうすれば良いのでしょうか。

村山村山支部長は、

- ・施工前後や災害時の写真を「見る」
- ・実際に避難路を「歩く」
- ・行政・専門家・施工会社・住民など、多様な立場の人と「話す」

これらの取り組みが大切だと示されていました。

村山支部長から、「自宅から避難路までどのように行けばよいか実際に歩いてみてね。」とアドバイスをいただきました。

いただいたお言葉を参考に実践することが、「防災の第一歩」につながると感じました。

「見る・歩く・話す」という実際の体験を通して、無電柱化が自分たちの暮らしや災害時の安全とどのようにつながっているのかを知ることが、自分事として考える第一歩になるのかもしれない。

【今後の無電柱化について】

無電柱化をさらに進めていくためには、以下の5つの条件が重要だとされています。

- ① 防災上重要な区間の選定
- ② 早期の連携
- ③ 事前調査
- ④ 地域に合う工法の選択
- ⑤ 制度の構築・市民理解

特に、②の早期連携を重要視されていました。行政だけでなく、一般市民の視点も取り入れ、計画段階から道路管理者や電力・通信事業者なども含めて共通理解を得る必要があるとのことでした。

QUESTION 12

無電柱化を進めるには、五つの条件が必要です

01	優先順位	緊急輸送道路と、避難所へつながる命の道から進める
02	早期の連携	防災・道路・消防・警察・電力・通信・施工・住民が計画段階から参加
03	事前調査	地中探査と試掘で地下埋設物を把握し、手戻りを減らす
04	地域に合う工法	トレンチャー、浅層埋設、小型ボックス、既存ストックを適切に選ぶ
05	制度と市民理解	工事費だけでなく、災害時の社会的損失まで含めて評価する

さらに、地域防災計画や津波避難計画などと連携し、幹線道路と避難路を切れ目なく機能させ、無電柱化を、地域防災を支える取り組みの一つとして進めていくことを目指されています。

【まとめ】

今回のインタビューを通して、無電柱化と防災のつながりや、実際の現場ではどのような工夫や苦労があるのかということ、これからの取り組みについて知ることができました。

特に

- ・電柱をなくし、電線類を地中化することで、地上からは見えなくなる一方、そこに至るまでの仕事や努力が見えにくくなること
- ・北海道などの寒冷地では、凍結や除雪などを考慮する必要があるなど、地域の特性によって、無電柱化を進める上での課題が異なること
- ・無電柱化を防災対策の一つとして適切に位置付ける姿勢が重要であることが新たな気づきとなりました。

この学びを活かし、無電柱化を防災の観点からも捉え、自分たちの暮らしと結びつけて考えていきたいと思います。最後に、取材に応じていただいただけでなく、記事作成の際、大変参考になる資料のご提供やご協力くださった村山支部長ほか、皆様に感謝申し上げます。（高橋）

【村山支部長より】

10月17日・18日に鳥取県で開催される「ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取」に、NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワークとして初めて出展します。

全国の防災関係者や自治体の皆様と直接お話しし、無電柱化の取り組みについてご意見やご質問、助言をいただける貴重な機会になると考えています。

無電柱化だけで、すべての防災上の課題を解決できるわけではありません。

しかし、災害が起きる前に備え、電柱の倒壊や電線の垂れ下がりによる道路の通行障害を減らし、避難や救助の道を守るための大切な手段の一つです。

「その道、逃げられますか？」をテーマに、自分たちが普段使っている道が災害時にも通れるのか、どのような備えが必要なのかを、全国の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

今回、高橋さんからいただいた13の質問に答える中で、私自身も初心に返り、約50年間携わってきた無電柱化の現場経験を振り返りながら、その必要性和、これから伝えていくべきことを改めて考えることができました。

高橋さん、こちらこそ、丁寧で素晴らしいインタビューをありがとうございました。



内閣府

ぼうさいこくたい
2026 in 鳥取

共に考え・備え・守る
- 支え愛♡で守る命と暮らし -

10/17(土)・18(日)

大会パンフレット

防災推進国民大会2026 in 鳥取

プログラムの詳細は
WEBサイトで!

日程 2026年10月17日(土)・18日(日)
10月17日 10:30 ~ (オープニングセッション) 11:30 ~ 18:00 (その他活動)
10月18日 10:30 ~ 17:30 (クロージングセッション 18:00まで)

会場 エースバック未来中心、鳥取県立美術館周辺

主催 防災推進国民大会2026実行委員会
(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議)

協力 鳥取県・倉吉市

ぼうさいこくたい 検索



北海道支部 フォーラム・実践

誰一人取り残さない避難へ。
北海道で、車避難を含む“逃げられる条件”を考えた。
高齢者・障がい者も含めて、みんなが逃げられるまちへ

雪・凍結
車での避難
高齢者・障がい者
も安心して

津波避難ビル
Tsunami Evacuation Building

ここは、
みんなが
逃げられる
場所です。

98.3%
電柱倒壊時の
避難に“不安・困難”
※電柱倒壊を想定した避難者50人のうち57人

269名
アンケート調査
71件

逃げられる道を守る。
その一つが無電柱化です。

避難計画があること、実際に逃げられることは同じではない。
車が通れない、避難所付近の渋滞や通行止め、逃げられないことある。

「避難してくださいますから、
「逃げられる道」へ。」

電線のない街づくり支援ネットワーク
www.bosai-kokutai.jp

あなたの
地域では、
どうですか?

お問い合わせ先
〒780-0808 鳥取県倉吉市
電話 093-724-3208
FAX 093-724-3209
Eメール bosai@bosai-kokutai.jp

ぼうさいこくたい展示予定ポスター

ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取

10月17日(土)・18日(日)
鳥取県倉吉市で開催されます。

NPO 事務局と NPO 北海道支部が
共同で出展致します。

お近くに行く予定があったら、
是非お立ち寄りください。

<https://bosai-kokutai.jp/2026/>

NPO のブースは鳥取県立美術館で展
示しています。ブース番号は B-130

NPO ブースの案内は下記をクリック
[ぼうさいこくたい 2026](#)

「インターン生 活動結果報告」 part2



今年の夏も、
無電柱化学生意識調査
をやってみた！

無電柱化学生意識調査
2026 夏

皆さん、こんにちは！私たちは今夏、インターンをしている学生の波多野です！

8月より、大学生(同年代の専門学生も含む)を対象にした、「無電柱化を皆さんがどれくらい理解しているか」のアンケート調査を行いました！

この調査は NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワークが、毎年インターン生に実施させているもので、大学生の無電柱化の認知度がどれくらいかと、無電柱化を知らない学生への啓発を目的としています。

このアンケートをすることでインターンに参加している学生の連帯感も高めるねらいもあります！

今年の夏の結果は？

皆様のご協力によって、かなりの数の回答をいただくことができました!!!

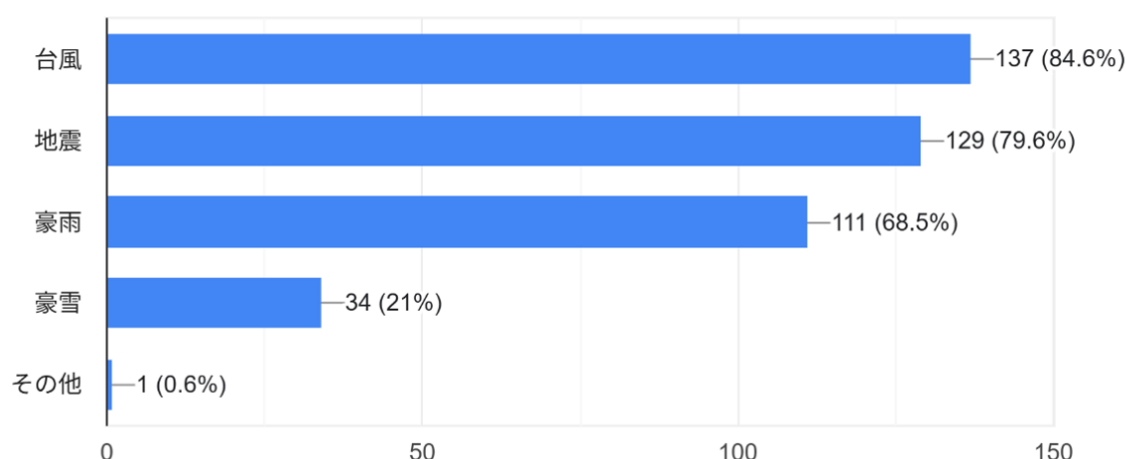
ご協力、ありがとうございます!!! **(9/15 現在、171 件の回答！)**

まだまだ回答は募集していますので、是非下のリンクからご回答よろしくお願いします！

[「無電柱化」学生意識調査のリンクはコチラ](#)  **大学生のかたは是非回答してみてください!!!**

0. あなたは災害（台風・地震・豪雨・豪雪）の経験をしたことがありますか？

162 件の回答



【至急！！】皆さんの力を貸して下さい！！“大学生対象”「無電柱化」意識調査 | NPO 法人 電線のない街づくり支援ネットワーク

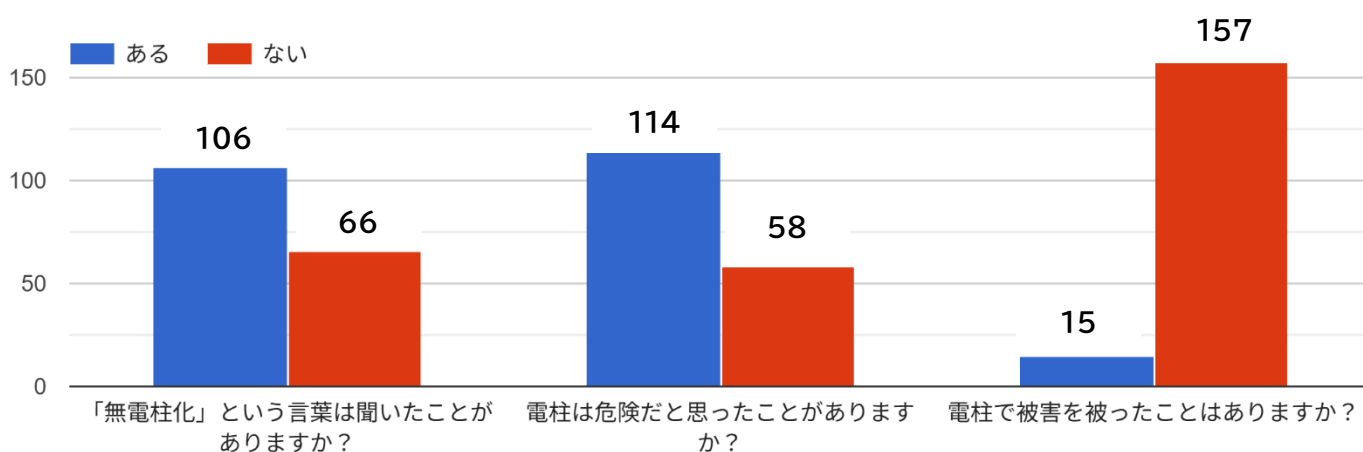
0. の回答より、台風を経験したことがある学生の割合が約 85%で、地震を経験したことがある学生の割合が約 80%、また豪雨についても約 69%と、災害を経験したことがある学生の割合が多いことが分かりました。

そして、**日本は災害が多い国であるからこそ、無電柱化を行うべき**だと考えています。

「無電柱化」という言葉を聞いたことがある人は**約 6 割ほど**であり、まだまだ「無電柱化」を知らない学生が多いことが分かりました。しかし「電柱を危険だと思う」学生は約 7 割と「無電柱化」を知らない学生でも「電柱が危険だ」と認識していることも分かりました。

このことは、問0の日本は災害が多く、いつ危険な目に遭うかわからないという潜在意識が働いているのかもしれないと推測しています。

1. それぞれの質問に「ある」か「ない」で教えてください

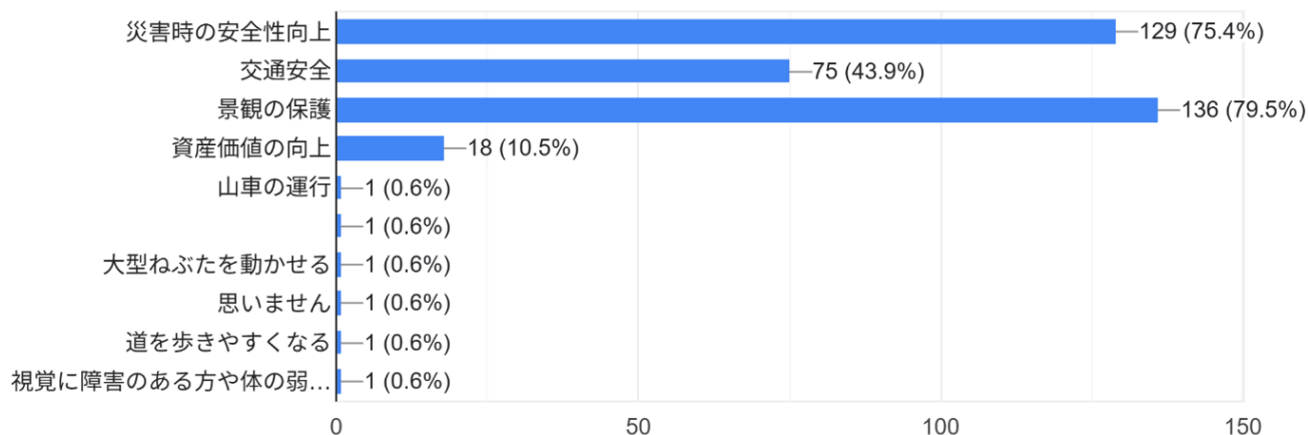


その反面、「電柱で被害を受けていると感じているひとは少ない」という結果が出ているのも興味深いです。このことについて、今夏インターンの一人が街頭調査を実施したレポートがあるので、興味があったら是非読んでみて下さい！

[【インターン生ブログ】「電柱は危険？それとも邪魔？」街を歩き、そこでインタビューしたことから見えてきた、無電柱化への意識](#)

2. 電柱がなくなることによってどんなメリットが生まれると思いますか？（複数回答可）

171 件の回答



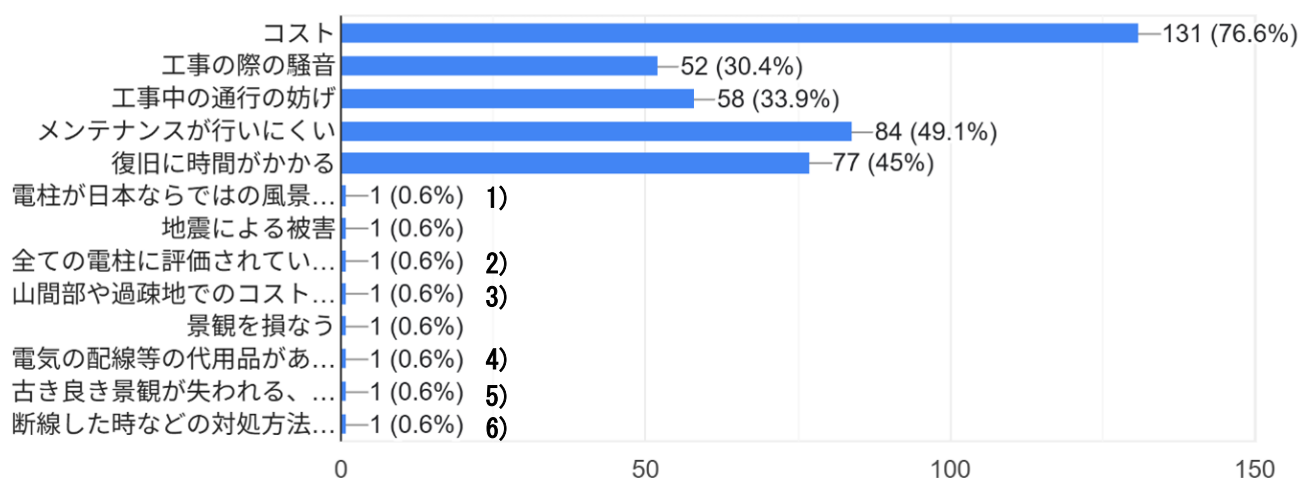
電柱がなくなることのメリットは、「景観の保護」（79.5%）、「災害時の安全性向上」（75.4%）と続いています。景観向上は、**無電柱化された場所が少ないながらも確実に景観をよくしていること**に起因しているのではないかと考えました。災害時の安全性向上も緊急輸送道路で無電柱化が進んでおり、電線管理者も緊急輸送道路は無電柱化を進めるとしていることが市民に浸透しているからなのかと感じています。一方、交通安全というメリットでは約44%と半分くらいの若者が認知しているにとどまっています。**資産価値が向上する**というメリットは約10%とあまり知られていないことが分かりました。

無電柱化は、**命や財産を守る防災力**や**日常生活の快適性を向上**させてくれる付加価値を持っているので、それに伴い資産価値が向上するのは必定です。

このようなメリットなど、防災や景観以外のメリットも広まってほしいと考えています。

3. あなたにとって、「無電柱化」のデメリットはなんだと思いますか？（複数回答可）

171件の回答



- 1)電柱が日本ならではの風景であること。ある意味で景観を保っている。
- 2)全ての電柱に評価されている個別番号がわからなくなることにより、緊急通報等における詳細な位置情報の特定が困難になる。
- 3)山間部や過疎地でのコスト高騰。コストが見合わず、地方は無電柱化ならず。景観や、利便性から見ても、ますます首都圏との格差が広がる可能性が高い。
- 4)電気の配線等の代用品があるのか。
- 5)古き良き景観が失われる、人間味のない街が生まれる。
- 6)断線した時などの対処方法が想像つかない。

デメリットとしてはコストや騒音、通行の妨げ、メンテナンスが行いにくいなどがありますが、一番デメリットだと思われるのが**コスト**の部分だということが分かりました。（131件・76.6%）。騒音（52件・30.4%）や工事中の通行の妨げになる（58件・33.9%）という回答も多く挙がっていました。

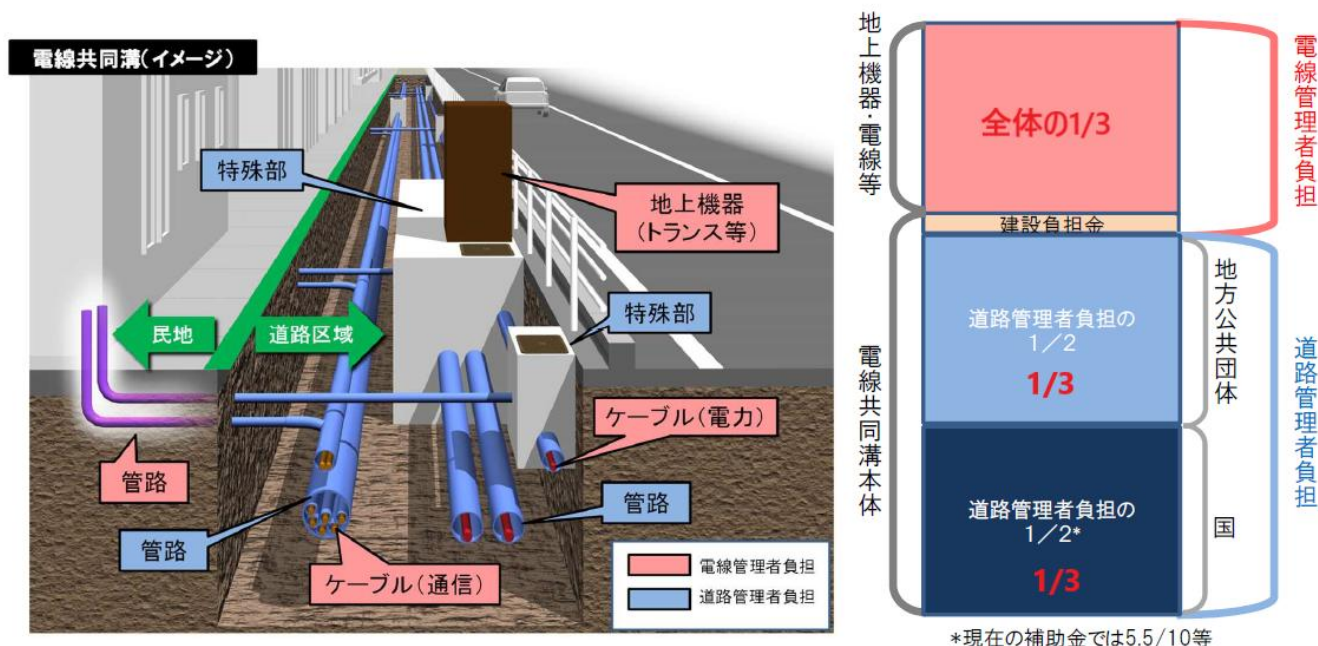
この三つは、国交省がまさに課題としている部分で、住民に配慮しながら高スペックで丁寧に地中化すること、今まで無計画に道路整備をしてしまっていることで、地下の構造整理ができていないことで、長期間の工事になり、近隣住民の不満を招いていることが、そのまま数字に表れていると考えています。

次に、メンテナンスが行いにくい（84件・49.1%）、復旧に時間がかかる（77件・45%）をデメリットにあげている意見が多くありました。

この二つのデメリットは、地中化されているので、もし壊れた時に破損した場所を特定しづらく、復旧に時間がかかってしまうという面を指摘していると考えました。

しかし、地中化された電線類は常に晒されている架空線よりも圧倒的に破損する可能性は低いと考えています。

- 電線共同溝本体(管路、特殊部)の整備は、道路管理者が実施。建設負担金を除き、国と地方公共団体が負担（地方公共団体が整備する場合は、国が補助金等で支援）
- 地上機器(トランス等)・電線等の整備や建設負担金は、電線管理者が負担



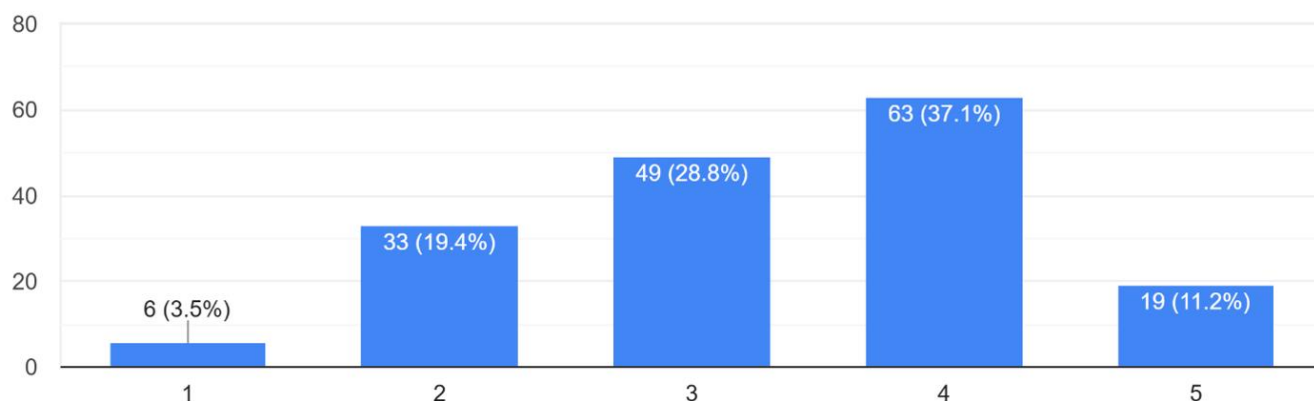
なぜなら、地中化を行う際には、今でも雨風にさらされても問題のない強固な被膜のケーブルをさらに丈夫な管路の中に収容して埋めているからです。地中化されたケーブルで断線しやすいのは、主線から各戸へ繋ぐ引込線の可能性が高いですが、この部分の場所は、ある程度は特定できるので長時間を要するものではないと考えています。架空線より復旧に多少の時間がかかるのは否めませんが、被災率は圧倒的に下がります。

現在の電線類を地中化することの仕組みをわかりやすくした、画像を用意したのでご覧ください。

この画像のように、電力ケーブルと通信ケーブルを丈夫な管路の中に収容して、地中に埋めることで地中化を行い、無電柱化を促進し、**災害に強いまちづくりや、景観の向上、交通安全、資産価値を向上させる**などといったことを狙っています。

4. メリットとデメリットを考慮して、「無電柱化」について1～5の段階でどれを選びますか？

170 件の回答

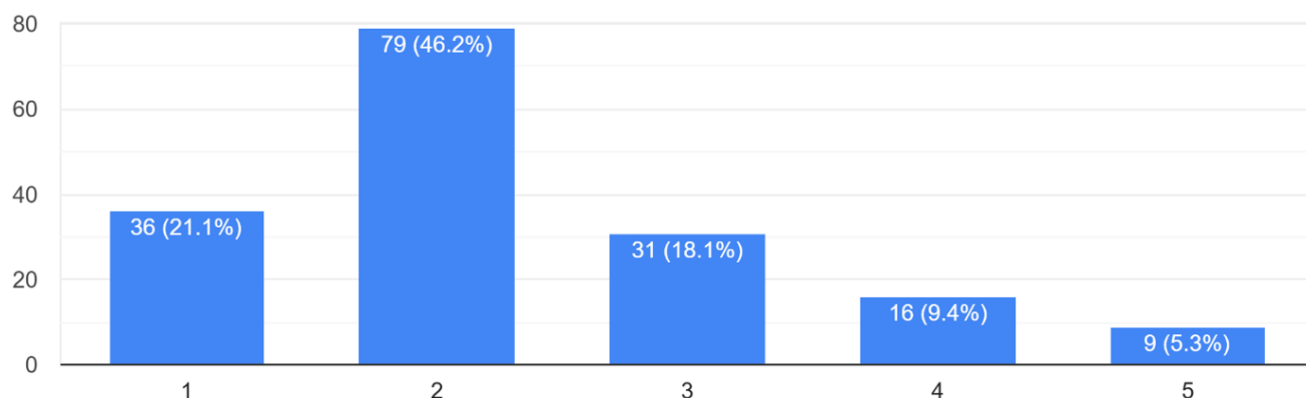


メリットとデメリットを考慮したうえで、無電柱化についてどれだけ肯定的に捉えているのかということをもとに1から5の段階で聞いてみると、比較的肯定的にとらえられているということが分かりました。このことから

無電柱化のメリットは一般の人々にもかなり求められているものだと考えました。

5. 日本には他にもさまざまな問題がありますが…無電柱化」の優先度はどのくらいだと思いますか？

171 件の回答



無電柱化の優先度を1から5の段階で聞いてみると、全体的に優先度は低いということが分かりました。この要因として、最後に出てくる、無電柱化に対して率直な意見を自由に記述してもらった質問で、「必要性を感じない」や「ほかに優先すべきものがある」などの回答があったことから、まだまだ他の問題と比べて優先順位が低いことが考えられます。

無電柱化をされている場所を知っていたら教えてください



イラストは AI 生成のもので、実際の風景とは異なる場合があります。

無電柱化をされている場所について質問してみたところ、「京都」と回答する人が多くいました。このことは、（私の住んでいる関西では）高校や中学の授業で、京都の一部地域では歴史的な景観の保全のために無電柱化を行っているという習ったことの影響だと考えています。このことから、無電柱化に景観の向上や保全をする効果があることは少し知られていると考えています。しかしまだまだ認知度は高いとは言えないので、もっとこのようなメリットが広まってほしいと考えています。

無電柱化について率直な意見をお聞かせください（自由記述）

～賛成・前向きな意見～ 約 30 件

- ・景観の向上：「景観がよくなる」「電柱がないすっきりした光景が見たい」など
- ・防災の面：「災害時の安全性が向上しそう」など
- ・安全性：「京都は水戸が狭く運転などで電柱が邪魔なので無くしてほしい」など

～コスト・優先順位に関する懸念や慎重な意見～ 約 20 件

- ・コストと時間：「コストの無駄」「時間がかかりそう」など
- ・優先順位：「他に優先すべきものがある」「急いでやる必要はない」など
- ・必要性：「現時点で必要性を感じない」「あまり必要性を感じない」など

～知識不足・まずは知りたいという意見～ 約 10 件

- ・「無電柱化という単語を初めて聞いた」「あまり耳にしたことがない」など
- ・「メリット・デメリットを知りたい」など

～否定的な意見～ 約 9 件

- ・「今ある者を時間とお金をかけて無電柱化する必要はない」「税金で行われる」など

～いただいたご意見、すべてお見せします！～ 78 件

<https://nponpc.net/wp-content/uploads/2026/09/3b419b1e4f420c20664ab7de8a35ed45.pdf>

インターンを終えての振り返り

今回、「インターン生 活動結果報告」part 1 の取材企画をしていただいた高橋さんに今回のインターンを振り返ってもらいました。

彼女は、関東地方の大学生で、オンラインでのインターンを選択して活動していただきました。

オンラインでのインターンも決して悪くない選択肢です！

私は、このインターンで

① 実際の業務を通して、仕事に必要な姿勢・考え方を学ぶこと

② 一つのテーマに対して多角的に捉える視点を身につけること

を目標に、約 2 か月間、活動してきました。

業務では、



オンライン朝礼風景（イメージ）

・他のインターン生と企画・目標の共有

→学生意識調査や SNS での広報活動などについて、現状や課題の確認、アイデア出し、意見交換をしました。

・無電柱化関係者へのインタビュー

→計画立てから取材、記事作成までの一連の流れを経験でき、仕事を一つずつ整理しながら進めていく意識を身につけることができました。

→得た学びや気づきをさらに掘り下げるまでには至りませんでした…。

(例) インタビューで、「北海道などの寒冷地では、施工の際に凍結や除雪などを考慮しなければならないこと」を理解 → 他の地域での「無電柱化」の進め方や課題の調査につなげるなど
などを行いました。

・1日のスケジュールとしては、

朝礼に参加(司会進行、1 分間スピーチ、[京セラフィロソフィ](#)の輪読などを担当しました)



午前中でミーティング

その後、自分のペースで企画を検討・実行

このようなスタイルでした。

私自身の都合上、東京の営業所まで足を運ぶことができないため、インターンの期間中は、常にオンライン上での参加でした。

しかし、仕事に真摯に向き合い、自ら考え、試行錯誤を重ねながら工夫していくことによって、その質は十分に高めることができると感じました。

・今後、インターンを考える学生さんへ。

私はこのインターンを通して、仕事とどのように向き合えば良いかを学んだり、自分の視点を広げたりすることができました。普段ではできないような貴重な経験も多くさせていただきました。この経験を、今後にも活かしていきたいと思います。

また、インターンは、首都圏の事業所・事務所に通わなくてもできます。

現地での参加が難しいから…と諦める前に、ぜひオンラインという手段も考えてみてほしいです！

※当 NPO のインターンは、朝礼は、大阪の事務所だけでなく、東京営業所や個人とオンラインでつないで常に実施します(末尾の写真)。

今夏のインターン生が取り組んだ企画の紹介！ ※上記以外

「もし、電柱が消えたら？」 無電柱化【Before→After】比較画像広報企画 (谷澤さん)

・募集目的

電柱の存在に少しでも疑問を持ってもらうことで、無電柱化の取組が広まり、よりよい街づくりに繋げたい。

今回の企画はその第一歩として、

日本全国の無電柱化した方が良いと思われる風景・景色について一般の方々に発信をする企画を実施していく。企画を実施することで、無電柱化の効果を視覚的に人々に伝え、無電柱化の認知度向上をはかる。

「もし、電柱が消えたら？」

「そんなの、考えたこともなかったよー」

<https://nponpc.net/info/20260826before-after/>

電柱の危険性！ドライブで体感！（夏野君）

今夏、NPO にインターンにきている学生が、車で運転の際にいつも危ない、邪魔だと感じている電柱を動画で撮影することで表現したい！

ということで企画したのが、電柱の危険性をドライブによって実際に体感するというものです。

狹隘道路であったり、登下校ルートであったり様々な道をドライブして、電柱がある事による危険性や電柱がないことによる開放感を撮影し、Youtube に投稿するという事をしました！

<https://nponpc.net/info/experience-it-firsthand-on-a-drive/>

【インターン生ブログ】「電柱は危険？それとも邪魔？」街を歩き、そこでインタビューしたことから見えてきた、無電柱化への意識（志村君）

「電柱は危険だと思いますか？」「電柱は邪魔だと思いますか？」

この二つの質問は似ているようで実は少し違います。

今回、私は「無電柱化」をテーマに、神戸の街を実際に歩きながら街の様子を観察して自分なりに考察をしたり、さらに街行く人へのインタビューを行うフィールドワークを企画しました。

まず、無電柱化とは、道路上から電柱や電線をなくし、地中に埋設するなどする取り組みです。

これにより、街の景観がよくなったり、歩道を広く使えるようになり、通行時の安全性が高まります。

また、災害時に電柱が倒れたり電線が切れたりする被害を減らし、通行や救助活動がスムーズに行えます。

このような要因から無電柱化が推奨されます。

<https://nponpc.net/2026/08/26/are-utility-poles-dangerous/>



インターン活動
オンラインを通じての
朝礼の様子